

「『親の力』をまなびあう学習プログラム」
を持続可能な取組としていくために
～ファシリテーターの果たす役割を中心に～

ぼれっとひろしま

広島県立生涯学習センター

振興課 主任 松田 愛子



はじめに

はじめに

家庭環境の多様化・地域社会の変化



「家庭教育」が困難な社会

- ★広島県教育委員会では、
「家庭教育支援」のツールとして
「親の力」をまなびあう学習プログラム
(通称「親プロ」) を開発・普及



研究のねらい

- 「親プロ」発展・普及の鍵を握る「親プロ」ファシリテーターの果たす役割を中心に、取組の現状を整理する。
- 「親プロ」を持続可能な取組としていくための方策と今後の展望を考察する。

主な発表内容

- 1 家庭教育支援の動き**
- 2 「親プロ」の概要と事業経過**
- 3 「親プロ」ファシリテーターの概要**
- 4 持続可能な取組のためのシステムづくりに向けて**
- 5 展望（10年後の目指される姿）**

1

家庭教育支援の動き

家庭教育支援の動き①

親の親としての“育ち”を支援する
「親学習プログラム」が注目
先行的に主に欧米を中心に
開発・実施



日本向けにアレンジされて導入

- 【例】 **Nobody's Perfect**プログラム
(完璧な親なんていない)【カナダ】
Positive Parenting Program (トリプルP)
【オーストラリア】

家庭教育支援の動き②

自治体による
「親学習プログラム」の開発

- 【例】 栃木県：親学習プログラム
富山県：親を学び伝える学習プログラム
山梨県：やまなし「親」学習プログラム
滋賀県：語り合いを通じた親育ち
大阪府：「親」をまなぶ、「親」をつたえる
兵庫県：ひょうご親学習プログラム
「ゆっくりゆったり親育ち」
和歌山県：本音でトーク！
鳥根県：親学プログラム

2

「親プロ」の 概要と事業経過

(1) 平成18～19年度の取組

- **文部科学省委託事業**
「家庭教育支援総合推進事業」
- **「親の教育力を高めるプログラム
開発検討委員会」の設置**
【検討委員】
学識経験者，行政関係者，社会教育関係者，
PTA関係者 など
- **「親の力」をまなびあう
学習プログラムの開発**

「親の力」をまなびあう学習プログラムの開発

このプログラムでいう「親の力」とは・・・

2つの子育て力が一体となった力

子育て力Ⅰ
子どもに対して
第一義的責任を
果たす力

子育て力Ⅱ
社会の一員として
子どもを育成する力

＝ 人を育てようとする人なら誰もが持っているであろう“親心”から発せられる力

「親の力」をまなびあう学習プログラムの開発

子育て段階に応じたプログラム

●身近なエピソードをもとにした内容

【対象】 中学・高校生などの青少年、まもなく親になる人
0歳児～小学校3年生の親
小学校4～6年生・中学・高校生の親
中高年などの子育て支援者



●学習のすすめ方



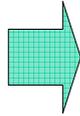
●ワークシート（教材）



「親の力」をまなびあう学習プログラムの開発

寄って、話して、自ら気づく「参加型」

講演を聴くなどの
従来の「講義型」
の学習方法



参加者が
“学びの主体”となる
「参加型」の学習方法

子育てを振り廻り学びあう中で、親が「自ら気づき」「自ら学べる」力を！

★このプログラムに「正解」はありません。

うちとける



簡単なゲームを通じてリラックスした雰囲気に。

話し合う



思いや意見をグループで出し合い、考えを広げます。

気づく



話し合いをふりかえり、「気づき」が生まれます。

(2) 平成20～22年度の取組

● 単県事業

「家庭教育応援プロジェクト事業」

● (出前) 講座の実施

- ・ 幼稚園、保育所、小学校、
中学校の保護者懇談会・PTA研修会
- ・ 子育て支援センター、公民館の家庭教育講座
- ・ 子育てサークル・サロン など



出前講座(保育園)

● ファシリテーター 養成講座の開催

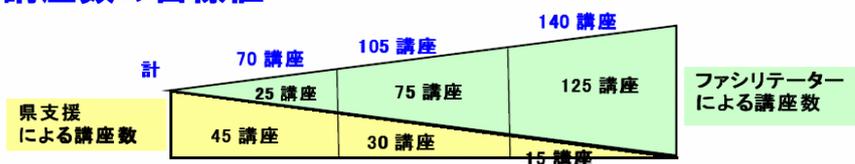
● 市町単位のファシリテーター 交流会の開催 など



養成講座(修了証渡し)

事業の経過（平成20～22年度）

●講座数の目標値

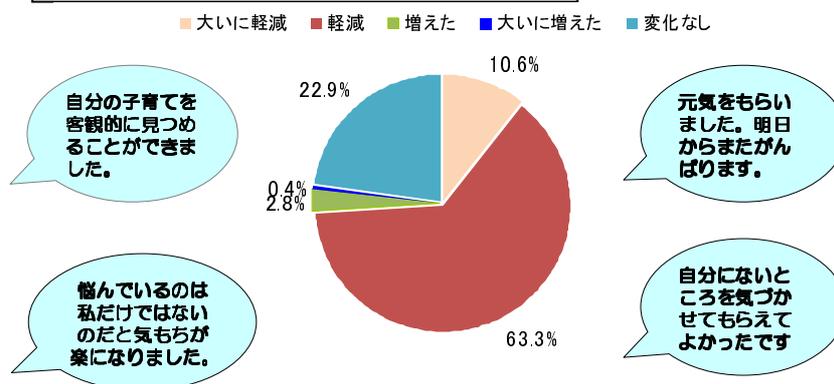


●実績

項目		20年度	21年度	22年度	計
講座数	県支援	102件	27件	17件	146件
	ファシリテーター	6件	130件	117件	253件
	計	108件	157件	134件	399件
参加者数		2,730人	3,026人	2,943人	8,699人
ファシリテーター養成数	県	67人	61人	40人	168人
	市町	6人	58人	61人	125人
	計	73人	119人	101人	293人

講座参加者の声

子育て等に関する不安や悩みの変化



（平成20～22年度講座実施後のアンケート結果から）

⇒ 7割を超える参加者が子育ての不安が軽くなったと感じている。

(3) 平成23～25年度の取組

● 単県事業 「家庭教育支援事業」

市町における取組への“支援”にシフト

- ファシリテーター
「ステップアップ」研修
- 市町が主催する
ファシリテーター
養成講座への支援
- 新たな「場」の開拓
- 現代的課題に対応した
新規開発教材の開発
(携帯電話, 父親の子育て, ワークライフバランスなど)



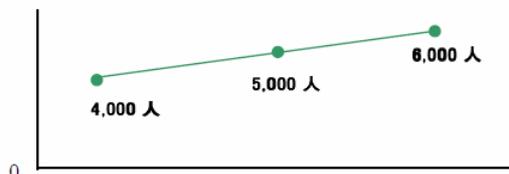
ステップアップ研修



小学校の入学説明会で
(新たな場の開拓)

事業の経過 (平成23～25年度)

● 参加者数の目標値



● 実績

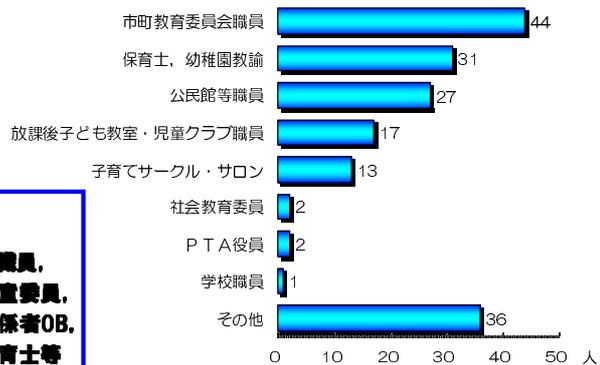
項目		23年度	24年度 (予定含む)	25年度	20～24年度計
講座数	県支援	16件	35件		197件
	ファシリテーター	160件	193件		606件
	計	176件	228件		803件
参加者数		4,235人	5,084人		18,018人
ファシリテーター養成数	県	—	—		168人
	市町	74人	135人		334人
	計	74人	135人		502人

3

「親プロ」 ファシリテーター の概要

(1) ファシリテーターの属性

● 「親プロ」ファシリテーター養成講座修了者の職種等



その他
NPO等の子育て支援団体職員、
児童・民生委員、主任児童委員、
母子保健推進員、学校関係者OB、
警察職員、将来教員や保育士等
をめざす大学生、主婦 等

【参考】平成22年度「第1回学習プログラム検討委員会」会議資料



さらに地域の多様な人材を巻き込みながら、

地域に根付いた「**地域の住民力**」を活かした活動へ

(2) ファシリテーターの果たす役割

● ファシリテーターとは？

人々の活動が容易にできるように支援し、
うまくことが運ぶように舵取りをする役割を持つ人

ファシリテーション (Facilitation) Facilitateはラテン語でeasyを意味する
「**ことを容易にする、楽にする、促進する**」という英語の原意

● 「(親プロ) 学習のすすめ方」の視点

- ① 学習者の「自ら気づきまなぶ力」を引き出しましょう
- ② 語り上手ではなく、聞き上手になりましょう
- ③ 力の均衡 (パワーバランス) を大切にしましょう
- ④ コーディネーターでもあります
- ⑤ 深刻な問題は関係機関を紹介しましょう
- ⑥ いろいろな人の存在を意識しましょう。

「親プロ」ファシリテーターへの期待①

● 草の根活動を広げ

● 地域の教育力を高める

● 地域の「**キーパーソン**」として (重要な人)

「親プロ」ファシリテーター

≡ **専門家 (スペシャリスト)**

地域で温かく子育て家庭を見守る

「**おとな**」(近所のおじさん・おばさん)たちの**応援**

➡ **地域全体の教育力向上へ**



小学校の地域公開参観・教育講演会で

「親プロ」ファシリテーターへの期待②

- 多様な「親の力」を結び付ける
- 「コーディネーター」として

地域の中に、
お互いに信頼し合えるネットワーク
(仲間づくり)を形成

人から元気をもらったり、人に元気をあげたり、支えあって育ちあうことが大人になっても大切。
(ファシリテーターの声)

親自身が一步踏み出す「勇気」

つなぎ役・調整役



孤立化した家庭を開き、
地域とのつながりを作る

支える体制(仕組み)

「親プロ」ファシリテーターへの期待③

- 心に寄添い、共感をもって励ます
- 「メンター」として

答えを求めるのではなく、親の気持ちを楽にできる架け橋の役割ができれば。
(ファシリテーターの声)

子育てを支援する人からのプレッシャー

「支援する側の考えは一樣ではありません。」

子育てサポートステーションで

『親のわがままではないのか』

『もっと母親がしっかりすればいいのに』

という思いを持つ人も少なからずいます。

出口のみえないトンネルをさまよう心境の

母親に寄添って、ともに歩くような支援を」



聖泉学園大学大学院 大日向雅美教授

4

持続可能な取組 のためのシステム づくりに向けて

(1) 地方自治体と行政職員の果たす役割

地域の実情に応じた具体的な家庭教育支援の取組を各自治体が、それぞれの家庭教育支援に係る施策や教育計画のもと、責任をもって進めていくことが重要。



中学校の地区懇談会で

●市町の役割

- 住民の最も身近な行政機関として
- 家庭や地域の具体的なニーズを的確に反映
- それに応じた家庭教育支援を日常的に実施
- 地域の様々な関係者・機関との取組を
コーディネートする中心的な役割を担う

【具体例】

- ・「親プロ」講座の企画・実施
- ・「親プロ」ファシリテーターの養成
- ・人材養成に必要な地域人材の発掘と活動のコーディネート
(地域の多様な力の結集)
- ・地域の様々な関係者・機関との連携・調整
- ・ファシリテーターの組織化と運営のサポート
- ・調整や合意形成を図る場としての協議会や
委員会等の組織化・運営等

●県の役割

- 広域的な観点から
- 地域の家庭教育支援の取組を活性化するための
仕組を整備

【具体例】

- ・現代的課題に対応したプログラムの開発や改善
- ・新たな「場」の開拓、新たな手法の開発
- ・取組事例の収集・検証→モデル的取組の普及啓発
- ・市町におけるファシリテーター養成への支援
- ・養成したファシリテーターの資質向上と
県域のネットワークの構築促進
- ・その他、広域的な関係者のネットワーク構築促進
- ・市町や地域の様々な主体に対する情報提供、
助言、その他必要な支援

(2) ファシリテーターのネットワーク

ファシリテーターの悩みや疑問を
乗り越えるための**知恵や力**



同じ仲間同士の学びあいと交流

「親プロ」活動の継続・充実

- ファシリテーター自身の
学びと交流によるスキルアップ
- 仲間との信頼関係づくり **が不可欠**

●市町域でのネットワーク

- 親プロ「講座」の**打合せ**（役割分担など）
- ファシリテーター仲間の**情報交流**
- 市町主催によるファシリテーターの
「**研修会**」や「**交流会**」の開催
- **ファシリテーターグループの結成**
 - ・ 定例会の開催
 - ・ 「親プロ」講座の主催
 - ・ 広報宣伝などの積極的・主体的な活動 など

先進事例①

尾道市「すまいるぱれっと」

●活動の経緯

- 平成19～22年度 6名が「親プロ」ファシリテーター養成講座修了
- 平成20年度～ 尾道市の家庭教育講座等でファシリテーターを務める
- 平成22年9月 ファシリテーターグループ結成
- 平成23年4月 グループ名を尾道市家庭教育応援プロジェクトチーム「すまいるぱれっと」と命名し活動中。

●活動内容

- 定期的な会議の開催
- オリジナルワークシート（尾道プログラム）の作成
- 講座の展開案や役割分担についての打ち合わせ
- 広報用リーフレットの作成、広報活動
- 独自研修会「スキルアップ講座」など



定例会



「親プロ」講座（中学校）

先進事例②

世羅町「Pくらぶせら」

●活動の経緯

- 平成22年度 町主催によるファシリテーター養成講座開催
- 平成22年度 県主催による養成講座修了者とともに（14名）
ファシリテーターグループ
「Pクラブ せら」を結成
→Pとは... ペアレント、プログラム、パワー

●活動内容

- 講座前の打合せ会議及び講座後の反省会の実施
- チームでの「親プロ」講座の進行
- 「親プロ」講座主催「おとうさんの子育てトーク！」
（後援：町教委）など



打合せ会議



中学校での講座



主催講座

（おとうさんの子育てトーク）

● 県域でのネットワーク

県主催

ファシリテーターステップアップ研修
での出会い・情報交流



市町域を超えた県域の
緩やかなネットワークの広がり

- 県内の先進地域のファシリテーターの集まりに
他市町のファシリテーターが合流
- 互いの活動を見学・支援 など

市域を超えたファシリテーター同士の直接的な交流

「学びあい」と「支えあい」

広島県版 「メイン」ファシリテーター
「親プロ」の特長 「サブ」ファシリテーター
の役割分担

一人では困難でも、
仲間とならやれる

➡ 若い「親」たちにとって
人と人との信頼関係づくりのロールモデル
「私もこうありたい」「こんな仲間を作りたい」

【モデルケース】安芸郡府中町の事例
「得意なこと」を持ち寄って



「子育て支援センター」等の職員（「親プロ」ファシリテーター）が、講座中の「託児」を担当

5

展 望

10年後の 目指される姿として

(1) 「支援される側」から「支援する側」へ

子育て支援の“受身”としての「親」

エンパワメント



子育てを“支援”する次世代の「力」

- 親が自ら“主体的に課題解決”をしていくことできる学びの機会の確保
- “学びと支援が好循環する”
仕組みの構築

「してあげる支援」から「力を引き出す支援」へ

“してあげる” 支援



親が親自身の力で育っていくための
“力を引き出す” 支援

学びと支援の好循環

【モデルケース】 東広島市の事例

小学校内に併設されている
公民館施設の**社会教育指導員**が、
「**支援者**」となり、
“参加者” だった **保護者の有志グループ**が
「**親プロ**」ファシリテーター活動を開始



東広島市
三ツ城コミュニティハウス

次世代の支援者へ“知恵”をつなぐ

ファシリテーターの養成を
“**先輩**” ファシリテーターが
「**支援**」

〇〇さんを目指し
てがんばります！
(養成講座修了者)

いろいろな人との
出会いがあり、気
づきや励ましも与
えられました。
(養成講座修了者)



ファシリテーター養成講座（呉市）

実践から生み出された
ファシリテーターの
“**知恵**” を
次世代の支援者へつなぐ

(2) 「親プロ」の限界を越えて

「親プロ」ファシリテーターの声

届けたい人に、届けられない

本当に困っている親は
学びの場に出てこない

「**学習機会の提供**」を基本とする
「親プロ」の活動



「**本当に困難な家庭には届かない**」
という“**限界**”

つながりにくい家庭に支援をつなげる

「**広く全国の市町村で専門家がチームを構成して支援する**
など、**身近な地域におけるきめ細かな家庭教育支援の取組**
が実施されるよう促す」

教育振興基本計画(平成20年7月閣議決定)

「**家庭教育を行うことが困難になっている孤立しがちな家**
庭や親へ支援を届ける取組(アウトリーチ)を推進して
いくことが課題です」「**(支援のネットワークを広げ**
る)家庭教育の支援の取組を、学校や地域における、
NPO等による様々な教育支援活動の取組と連携しながら
進めていくとともに、教育分野の取組と保健福祉分野の
取組の連携・協力を図る仕組みづくりが重要です。」

「家庭教育支援の推進に関する検討委員会報告書
『つながりが創る豊かな家庭教育』(平成24年3月)

広島県内の事例

● 向東地区家庭教育支援チーム 「親ちから」（尾道市）

地域の様々な関係機関と連携しながら、
家庭教育に関する情報提供や、
家庭教育講座の企画運営等を行う。

● 県教育委員会「学力向上総合対策事業」 家庭教育支援アドバイザーの配置

家庭の学習環境に課題のある児童生徒の
学力向上を図るため、保護者に直接ある
いは関係機関を通じて働きかけを行う。

ネットワーク型行政の推進

「今後、社会教育行政は、地域住民同士が学びあい、教えあう相互学習等が活発に行われるよう環境を醸成する役割を一層果たしていくことが必要（中略）このため、今こそ、従来の『自前主義』から脱却し、社会教育施設間の連携の強化のみならず、首長部局・大学等・民間団体等と連携して、地域住民も一体となって協働して、『ひらく・つながる・むすぶ』といった機能を様々な領域で発揮する、『社会教育行政の再構築』（ネットワーク型行政の推進）を実施していくことが必要」

「第6期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」（平成25年1月）

他主体との連携・協働が「鍵」

様々な主体との連携・協働

- 「親プロ」の“限界”と
“ポジショニング”を明らかにする
(全てを抱え込まない)

様々な主体と連携・協働

縦軸 (誕生から自立までの全ての発達段階において)

横軸 (多様化するすべての子育て家庭において)

切れ目のない支援へ

(3) 持続可能な社会の実現に向けて

- ファシリテーターのネットワークグループが
- 様々な主体とつながりながら 「親プロ」の枠組みを
超えて
- 地域の家庭教育支援を担う
NPO団体等として自立・成長

連携・協働のネットワーク

「ソーシャル・キャピタル」の創出

(社会関係資本)

- 住民と行政との協働による
- 「親プロ」を核とした新しい家庭教育支援の
仕組みの構築

「安心して産み喜びを感じながら育てられる社会」
= 「次世代を育成する持続可能な社会」を実現

ご清聴ありがとうございました



参考資料

- ①家庭教育支援の推進に関する検討委員会「つながりが創る豊かな家庭教育～親子が元気になる家庭教育支援を目指して～」2012年3月
- ②堀公俊, 加留部貴行「教育研修ファシリテーター」2010年10月
- ③中野民夫ほか「ファシリテーション 実践から学ぶスキルとところ」2009年4月
- ④(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 研究調査本部共生社会づくり政策研究群「親学び応援施策のあり方報告書」2010年3月
- ⑤「第6期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」2013年1月
- ⑥大日向雅美監修「子どもを愛せなくなる母親の心がわかる本」2007年
- ⑦研究代表者 和歌山大学地域連携・生涯学習センター・准教授・村田和子ほか「地域の子育て支援力の形成と強化に関する検討」
- ⑧財団法人 日本システム開発研究所「平成20年度 家庭教育の活性化支援等に関する特別調査研究 報告書」2009年3月